

第8期さくら市高齢者総合保健福祉計画自己評価に対する評価・意見

【評価】	
①-①自立支援・介護予防・重度化防止について	さくら市の今後の取り組みについて
地域の通いの場への必要な情報提供や人材派遣、運営補助。新たな通いの場の開設や常設型通いの場の開設支援。	
コロナ禍でこの活動数は○の評価で良いと思います	感染状況を注視しながら関係機関と連携し、活動を継続いたします。
コロナの流行を確認しながら、無理のない活動を望みます。	
医師団および歯科医師会と協力し感染予防を協議の上、実施すべき時期はあったと思われる。	
通いの場は具体的にどのようなところにあるのかを差し支えなければ教えてください。	作成時期が2020年1月ではありますが、「サロン・通いの場マップ」を作成しています。検索サイトで「さくら市サロンマップ」と検索していただくと、データを閲覧できます。
コロナで活動が難しかったと思いますが、引き続き体操教室や脳トレの機会を続けて行ってほしい。	コロナ禍以降は参加人数の多い「はつらつ元気塾」を「あおぞら元気塾」と改名して会場を屋外に変更しました。今後も工夫しながら各教室を継続いたします。
常設型の場の開設に期待します。高齢者と子供も集まれるような場があると良いと思います。	「にじいろ」と「TAKU-TAKU」の2カ所の常設型通いの場が開設され、年齢を問わず多くの市民が通われています。令和5年度にも新たな常設型通いの場が開設予定となっております。一方で、スタッフの後継者が見つからず、通いの場の閉鎖を検討しているところも出てきており、活動を継続できるように生活支援コーディネーターが伴走の支援を行っています。
非常に優れた試みだと思えます。	
○	
常設型通いの場の目標については、達成できていないが、コロナ禍での活動を継続するため伴走型支援を実施していたため	
ボランティアを通いの場に派遣し、予防につなげられるのは良いと思う。	
引き続き、保険者としてコロナ禍での活動のバックアップを図ってほしい。	
コロナ禍における活動制限のため、厳しい状況であったと思います。そのことを踏まえると十分であったと思います。	
地域の通いの場へ足を運び、地元住民の意見を直に聞く事が出来るとさくら市独自の通いの場開設に生かせると思う。	
通いの場の代表者の交流会は今後も継続して続けてほしい。	
訪問型サービスBの実施団体を対象とした補助金を創設し、住民主体の活動を支援する。	
活動実績は評価できると思います。今後の継続性の為にはいろいろな世代が関わって行く事が出来る様に環境を整備する取り組みが必要	各団体の支援や市民への周知を継続いたします。
訪問型サービスの市民への周知が重要と考えます。	
補助金の使用が大変良かった。	
延べ人数ではない人数を知りたいです。	実利用人数は106人です。
特にありません。	各団体の支援や市民への周知を継続いたします。
住民主体の活動は力強く、地域の結束にも繋がると考えられます。活動が広がっていくことを願います。	
非常に積極的に活動していて、とても良いと思います。	
◎	
実績が上がったため	
介護保険では手の届かない細かな支援が出来るという観点では、貴重な社会資源であると考えている。世代交代をうまく図ってほしい。	
十分な実績を上げており、引き続き継続していただきたいです。	
今後も市民に広く周知して頂きたいと思えます。	
創設した補助金を活用し、2000件近い支援がされていることから、有効な取り組みがなされている。	子育て世代や子育てが一段落した方への情報発信も継続いたします。
子育て世代の方々のお買い物、そうじ等の支援をお願いできないか？車の運転も心配はなく世代交流にも良いのではないかと？	
PR活動を広報紙、ホームページ、SNSで定期的に行ってほしい。	毎年1回、広報紙に掲載しています。SNSは、同じ情報を繰り返し発信すると登録者が減少してしまう傾向があるため、研修会等の情報と合わせて周知いたします。

①-②生活支援体制整備について	さくら市の今後の取り組みについて
地域の社会資源をまとめた「地域のお宝（社会資源）マップ」を作成し、サービスを必要とする市民や介護支援専門員等に周知を行う。	
評価できる	
地域のお宝を利用し、介護予防・重症化予防に取り組んでいきたい	今後も継続いたします。
継続が望ましい	
地図に落とし込むと文章で表示するよりわかりやすいと思います。	マップ作成に向けて作業いたします。
さくら市外に所属するケアマネが担当している介護者もいるため、市外のケアマネにも地域資源を周知出来る取組もあると良いと思う。	市外のケアマネジャーへの周知について、他市町の担当者と連携いたします。
地域資源の掘り起こし、開発の継続をお願いします。	
非常に優れた試みだと思います。	
○	
地域のお宝マップ作成に向けて着実に実施している	
高齢の方でもわかりやすい編集を期待しています。	高齢者にとってわかりやすい情報発信や、情報の更新を行ってまいります。また、必要とされる新たな社会資源の開発にも取り組んでまいります。
ゲーム形式で楽しく学ぶことは、とても素晴らしいと思います。	
福祉SOSゲームといった楽しんで高齢者福祉について理解を深めることができるような工夫がなされている。	
外国の学生、住民も増えていることからSOSゲームで作成したマップを活用し、住民が相談しやすい環境作りを目指す事は重要。評価としては◎	
ゲームにある情報を定期的に見直しをしてほしい。	
高齢者が地域の中で自立した生活が送れるよう、介護保険サービスとは別に、様々なサービスを提供する。	
給食サービスが必要な割に利用率が低い印象があります。原因（味、値段等）を検討して利用率の向上を目指してほしい	更に魅力的な配食サービスとなるよう他市町の取り組みを参考に研究してまいります。
介護タクシー・福祉タクシーはこれからますます需要のびるのではないかと思います。	高齢者の移動手段は大きな課題であると考えております。引き続き庁内関係部署、関係機関と連携して対応してまいります。
障がい者（児）などの協議も進めて頂きたい	障がい者担当部署とさらに連絡を強化し、必要なサービスへ繋げてまいります。
安否確認サービスなどの需要もあると思います。新たなサービスを創設する予定はありますか。	安否確認としては「高齢者給食サービス」「緊急通報装置貸与事業」「声かけ収集」を実施しており、既存のサービスの充実に取り組んでまいります。
改善を繰り返しながら継続をお願いします。	継続いたします。
福祉タクシーは何故使いつらいのでしょうか。いずれにしても、これらの3つのサービスはとても良いと思いますので、更に利用者を増やして欲しいです。	福祉タクシーにつきましては、利用しやすいものとなるよう、令和5年度から事業を拡大いたします。変更内容は、利用目的の大幅な拡充、1回に利用できる枚数制限の撤廃、75歳以上の高齢者への交付枚数の増となります。
○	
(4) (5) (6)の利用者数は少ないが、全体では利用が多いため福祉タクシーについては、タクシーの台数が多くないと利用する人が、利用するために待機している時間が多くなってしまうため、利用したいが利用すづらいことがある	今後もタクシー事業者と情報共有し、働きかけを行ってまいります。
目標を達成されており素晴らしいと思います。継続していただきたいです。	継続いたします。
福祉タクシーについて、喜連川から氏家の病院に利用できるようになったが、利用できる病院が決まっているため範囲を拡大すべきと思います。	ご意見につきましては、喜連川地区と黒須病院間を運行するつういんコンタ号のことで推察し回答します。つういんコンタ号は、喜連川地区にはない科目を診療できる総合病院であります黒須病院までの輸送を目的としております。現在1日4便、各便2時間で運行しておりますが、黒須病院のほかの複数の病院まで輸送すると、移動距離や移動時間が増加するため、1日に運行できる便が減少したり、1便あたりの乗車時間が長時間になる等の問題が発生する可能性があります。しかしながら、利用者によって利用する病院は様々であることも事実でございますので、より利用しやすい乗合タクシーの運行を検討してまいります。
配食サービスについて、開始したと同時に味が良くない、冷たい等の苦情？が聞かれた。なかなか事業所も少ないとは思いますが、スーパーやコンビニの弁当が良いという意見もあった。	利用者の方々の声を委託業者にもお伝えし、さらに充実した事業となるよう努めてまいります。

①-③認知症施策について	さくら市の今後の取り組みについて
認知症の方やその家族が、地域のサポートにより安心して生活を送ることができるよう支援体制の整備。	
コロナ禍でこの活動数は○の評価で良いと思います	
コロナの流行を確認しながら、無理のない活動を望みます。	3月2日に専門職の方を対象とした認知症VR研修会を開催し、89名の方にご参加いただきました。6月には若
継続し実績値より奏功の確認	年性認知症当事者の丹野智文氏の講演会開催も検討し
認知症サポーター養成講座は年々受講者数が増えているので素晴らしいです。	ております。
認知症支援の取組はもっと広めていく必要があると思います。支援の場は続けながら、広報にも力を入れて	また、新たに発足した「チームオレンジさくら」の活
いただければと思います。	動の一環として、3月から認知症の本人と家族が何を
継続をお願いします。	したいか話し合い、実際に活動して思いを共有すると
	いう一体的支援プログラムを開始しました。3月の活
	動では、クッキー・和菓子作りを行いました。
	今後も、当事者やご家族、市民、専門職の皆さまを対
	象とした普及啓発活動を実施いたします。
全体的にとても良いと思います。	
○	
サポーター養成講座受講者が増え、認知症の理解者が増えていること	
認知症カフェにおいて、	各団体の関係者にご要望をお伝えし、協議してまいり
軽度認知症の方も支援する側に立てる機会を設けて	ます。
もらいたい。	
地域づくりの要としての役割があるかと思えます。継続していただきたいです。	継続いたします。
今後認知症の方や家族が気軽に利用するためにカフェの場所・利用できる時間帯の周知すべきと思う。	現在、オレンジカフェのチラシを配布しているほか、
	広報さくらの裏表紙のカレンダーへの掲載も行ってい
	ます。今後は、別の媒体等による周知も検討いたしま
	す。ご要望も多く、参加をお断りする場合も出てきて
	いるため、令和5年度は新たに3カ所の認知症カフェの
	設置に向けて取り組んでまいります。
市内にサポーターが沢山いると思うがキャラバンメイト養成研修を受けた者同志が講座を開けるよう交流を	
図っていききたい。	
サポーターになった市民がさらに活動できる仕組みを作る必要があると思う。	認知症カフェや上記の一体的支援プログラムへの協力
	等を検討いたします。

②介護給付適正化について	さくら市の今後の取り組みについて
①要介護認定の適正化、②ケアプラン点検、③住宅改修等の点検、④医療情報との突合・縦覧点検、⑤介護給付費通知送付	
介護認定の標準化、介護サービスの標準化の為に研修会などの取り組みを要すると思う	①要介護認定の適正化
特に認定調査の適正化・標準化が大切と思います。	継続いたします。
継続を願いますスペシャルニーズセンター	②ケアプラン点検
介護支援専門員などの専門職どうしの意見交換ができて良いと思います。	令和5年度に開始予定のケアプラン「気付き」共有会議に先駆けて、3月17日にケアマネジメント研修会を開催し、40名の方にご参加いただきました。今後は、会議を通じて、保険者である市担当者も一緒にスキルアップを図ってまいります。
特にありません。	③住宅改修等の点検
継続をお願いします。	住宅改修・福祉用具購入は、事前調査を実施し確認・点検を実施してきました。このことに加え、令和5年度からは、居宅介護支援事業所1事業所当たり年1回、住宅の実態（改修の必要性）、利用者の状態、価格の確認・点検を実施してまいります。
とても良いと思います。	④医療情報との突合・縦覧点検
○	継続いたします。
②ケアプラン点検については、やはりコロナ禍の対応をもっと早くから取り入れること	⑤介護給付費通知送付
介護給付の伸び率と高齢者人口の伸び率が同等程度になるよう、今後も点検をお願いしたい。	継続いたします。
コロナの影響を受けながらも工夫され、十分な成果を上げていると思います。	
住宅改修についての意見書作成において、もちろん介護支援専門員や福祉用具相談員は専門の知識はあるが、さらに病状に詳しく回復の見込みに合わせて提案が出来るとムダがはぶけるように感じる。（箇所、料金）	
ケアマネジャー連絡協議会や地域包括支援センター、行政で協働してこれらの事業を行うようにしてほしい。	